

前置胎盤(後壁主体)の発症機序;前置胎盤が深部子宮内膜症例に多いメカニズムとして病変そのものでなくダグラス窩の子宮腸管癒着が関連するとした仮説の証明に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (2020年11月6日) ~2023年12月31日

〔研究課題〕 前置胎盤(後壁主体)の発症機序;前置胎盤が深部子宮内膜症例に多いメカニズムとして病変そのものでなくダグラス窩の子宮腸管癒着が関連するとした仮説の証明

〔研究目的〕 子宮内膜症重症例に前置胎盤が多いのは子宮後方で腸と癒着しているためではないかと考え、前置胎盤評価用のMRIで子宮腸管癒着に関して放射線科医による後方視的検討を行い、癒着有無別にボランティアの方の子宮蠕動運動をシネMRIで確認します。前置胎盤の発症機序解明が本研究の目的です。

〔研究意義〕 前置胎盤(後壁主体)の発症機序が明らかになることに本研究の意義があります。

〔対象・研究方法〕 対象として2009年から当院で前置胎盤に対して帝王切開をされた方で妊娠中に胎盤位置をMRIで評価させて頂いた方の子宮後方における腸管癒着を後方視的に評価します。子宮筋腫核出術後などの理由で妊娠中にMRIを撮られた方をコントロールとします。収集項目としては年齢、分娩歴、手術歴、術前MRI画像、妊婦健診時の胎盤位置を示す超音波画像、腹腔内の癒着有無、帝王切開時の所見、出血量、手術時間、子宮内膜症や子宮筋腫の有無などです。統計学的に前置胎盤との関連性を検討します。ボランティアの方は黄体中期の子宮蠕動運動の画像を評価します。

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

〔個人情報の取り扱い〕

個人が特定されて個人情報が明らかになることはないよう、厳重に管理します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科 五十嵐敏雄

研究分担者: 八條隆汰、染谷拓郎、土田千尋、馬場聡、本城晴紀、足立克之、梁善光

所属: 帝京大学ちば総合医療センター産婦人科 住所: 市原市姉崎 3426-3 TEL: 0436-62-1211(代表)

〔内線 5109〕